

令和 7 年度 第 1 回 地域連携推進会議事録

社会福祉法人 愛星会
やまばと

- 1 開催日時 令和 7 年 10 月 30 日(木)
自 : 14 時 35 分 至 : 16 時 05 分
- 2 開催場所 社会福祉法人愛星会 やまばと会議室
- 3 出席者氏名 利用者 1 名
利用者家族 1 名
地域の関係者 1 名(地元区長)
市町村担当者 1 名(東吾妻町 保健福祉課)
施設職員 4 名(施設長 、 副施設長 、 事務長 、 支援部担当者)
- 5 欠席者氏名 なし
- 6 書記氏名 中井栄一
- 7 議事内容

先に施設見学を行い、会議は 14 時 35 分より開会した。

はじめに、茂木施設長が挨拶の中で本会議の趣旨を改めて説明した。続いて構成員の方々の紹介を行い、参加の承諾をいただいたことに謝意を伝えた。そして、「本日の会議が実りあるものとなり、施設と地域の関りをより深めるきっかけにしたい」と述べた。

次に、事務局が「会議の目的」①～④について、資料を基に説明を行った。

1) 会議の目的

- ① 利用者と地域との関係づくり
- ② 地域の人への施設・利用者に関する理解の促進
- ③ 施設の透明性・サービスの質の確保
- ④ 利用者の権利擁護

元々、地域との関係づくりは良好であるが、利用者の生活の向上と施設の効果的な運営のためには、地域・行政の関係者に施設をもっと知ってもらうことが必要である。今回、それも踏まえて施設見学をしていただいたが、ここで改めて「やまばと」の概要とこれまでの地域との交流の歴史について、説明したい。

2) やまばとの概要説明

やまばとは知的障害者の方の入所施設であり、福祉サービス施設として群馬県の指定を受けている。定員は90名。令和2年11月に今の場所へ新築・移転した。短期入所についても各階2名ずつ受け入れが可能。

利用者の出身市町村は県内外合わせて30市区町村（最年少19歳、最年長82歳）。入所の利用にあたっては、相談員・各行政の福祉課が窓口となって本人の障害区分を判定。その後、施設と入所契約を行い、その人の障害特性に合った個別支援計画のもと、支援を開始する流れとなっている。

3) 地域との交流の歴史について

昭和40～50年代は、町民運動会への参加、やまばと運動会への招待、坂上地区内の遠足、区内の除雪作業を開始。平成になると神社のお祭への参加、小学生のボランティア受入れ、県道・バス停掃除、敬老会に手作りの雑巾を贈呈、須賀尾ホームの開所などがあり、各区敬老会に「やまばと舞踊クラブ」が参加してる。令和元年からは、地元植物園に記念樹を植樹、近隣の雑木林の伐採、耕作放棄地の整備、除草作業等を実施している。

また、日常での交流・協力としては、住民の皆さんのお宅で採れた野菜類の寄贈、無断で外出してしまった利用者さんの情報提供及び一次保護、地元で行われる行事への参加やお誘いなど、昔から地域住民の方には温かく見守られてきた歴史がある。

8 意見交換・感想など

Q：昔は木工作业をしていたが、今はどうか？

A：利用者の重度・高齢化が進んだため、移転と同時に作業は終了した。その分、サービスを手厚くするよう、人員配置をしている。

Q：欠員が出ないと入所できない？

A：短期入所の枠で長く受けることもあったが、今は難しい。待機してもらうことが多い。

Q：介護が必要となった場合はどうするのか？

A：やまばとより十分なサービスが受けられる介護施設へ移行していただくが、利用者さんにとってはどちらが良いのかを充分検討し、進めるようにしている。

9 閉会

最後に茂木施設長から、「今般、国の施策では入所施設を新たに増やすことはせず、地域移行を目的としたグループホームの利用が推進されている。しかし実際には、入所施設を必要とする重度の障害を持った方もおり、やまばともそういった方の受け皿となっている。」と述べ、会議を閉じた。